第11回その四 メモ

以下に示す日本語表現は、テクニカルターム以外は表現・レトリックの問題なので、唯一の正解と受け取らないように。

p.3

第三パラ

3行目

comptes nationaux 国民経済計算

<https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/seibi/kouhou/93kiso/93snapamph/chapter1.html#c1>

p.4

第一パラ

2行目

opportunité de marché (全く文脈からの推測だが) 今なら値上げできるという判断を指す。opportunité から p.2 最後のパラのタイトル opportunisme に繋がっている。

第二パラ

5行目

vaches maigres 『聖書』創世記からきている。

https://www.vivonet.co.jp/rekisi/b01_create/created.html

に便利な創世記の要約がある。最後の欄「ヨセフ」参照のこと。

フランス語をやる以上は、新・旧訳聖書のポイントは押えておくことが望ましい。西洋美術を理解するのにも必要だ。本物の聖書を読んでキリスト教に帰依してしまうといけない... いや大変良いことかも知れないが(笑)、解説本を覗くのが良いと思う。早い話が、上記サイトには色々リンクが貼ってあり、それを追っていただけでも、かなりの情報が得られそうだ。

第三パラ

一行目

stratégie de montée en gamme 高級車の販売促進

普通は、「中低価格帯の車を主体としていたメーカーが、よりランクの高い車の開発・生産を目指す」という意味で用いられる、と思っていた。例えばトヨタが、ベンツ並のブランド・イメージを狙ってレクサスを開発した。

p.5

第三パラ

2行目

une autre vérité des prix s'installe.

価格について、今まで隠されていたことが明らかになりつつある、というところから、今までと違う状況になりつつある。

以下は教材とは関係無く、「小林のブログを読まされているみたいだ」と言われそうだが、授業で私のバーチャル背景を何だろうと思った方のために：

宮本武蔵の水墨画として超有名な「枯木鳴鶉図 (こぼくめいげきず)」。

<https://blog.goo.ne.jp/kelu-cafe/e/2936aeac7ada56762c996d450d4d9501>

1982年、最初のフランス留学から帰国した途端に、ど〜ゆ〜わけか研究室に小学館『原色日本の美術』なる全集を売り込みにきた。相当な値段であったが、向こうで色々見聞きしている内に「日本にも立派な美術作品があるのではないか」と思ったばかりだったので、買った。小学館の営業マンもそれを狙ったに違いない。つまり、誰が外国留学から戻ってきたかまで、日頃から調べているということになる。

『原色...』「水墨画」の巻に、宮本武蔵の絵が二枚。しかし肝心のこの絵は、解説文の中に小さく出ているだけで、しかも「大阪 久保家」とある。重要文化財でもあるこんな絵がど〜して個人所蔵なのだ、つまり特定の個人が隠し持って一人で楽しんでいるのだ、と腹を立てたのを覚えている。

検索すると、複製は2万〜9万するらしい。

幸い現在は、本物が和泉市久保惣記念美術館にあるそうだ：

<https://ja.wikipedia.org/wiki/和泉市久保惣記念美術館>

大阪府和泉市内田町だそうだから、近くにお住まいの方はご覧になるのも良いかも知れない。かなりのコレクションがあるようだ。